



Dominion KX II

クイック ステップ ガイド

KX II™ をお買い上げいただき、ありがとうございます。多彩な機能を備えた、エンタープライズ クラスのセキュア デジタル KVM (キーボード/ビデオ/マウス) スイッチです。

このクイック セットアップ ガイドでは、KX II のインストール方法と設定方法について説明します。KX II のすべての側面に関する追加情報については、製品に付属している、KX II からアクセス可能なオンライン ヘルプ、または PDF 形式の KX II ヘルプを参照してください。PDF 形式のヘルプは、Raritan の Web サイトの「Firmware and Documentation」セクション (<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>) からダウンロードできます。

常に最新の KX II のマニュアルを確実に使用できるように、まずオンライン ヘルプまたは PDF 版のヘルプを使用することをお勧めします。ヘルプはすべて、弊社 Web サイトから入手できます。

ステップ 1: KVM ターゲット サーバを設定する

Windows®, Linux®, X-Windows, Solaris™, KDE などのグラフィカルユーザ インタフェースを実行する KVM ターゲット サーバは、帯域幅効率とビデオ パフォーマンスを最適化するための設定が必要になる場合があります。デスクトップの背景は完全な無地にする必要はありませんが、写真や複雑な配色の背景を使用すると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

サーバのビデオ解像度とリフレッシュ レートが KX II でサポートされていることと、信号がノンインタレースであることを確認します。KX II でサポートされている画面解像度は次のとおりです。

解像度	
640x350, 70Hz	1024x768, 85Hz
640x350, 85Hz	1024x768, 75Hz
640x400, 56Hz	1024x768, 90Hz
640x400, 84Hz	1024x768, 100Hz
640x400, 85Hz	1152x864, 60Hz
640x480, 60Hz	1152x864, 70Hz
640x480, 66.6Hz	1152x864, 75Hz
640x480, 72Hz	1152x864, 85Hz
640x480, 75Hz	1152x870, 75.1Hz
640x480, 85Hz	1152x900, 66Hz

解像度	
720x400, 70Hz	1152x900, 76Hz
720x400, 84Hz	1280x720, 60Hz
720x400, 85Hz	1280x960, 60Hz
800x600, 56Hz	1280x960, 85Hz
800x600, 60Hz	1280x1024, 60Hz
800x600, 70Hz	1280x1024, 75Hz
800x600, 72Hz	1280x1024, 85Hz
800x600, 75Hz	1360x768, 60Hz
800x600, 85Hz	1366x768, 60Hz
800x600, 90Hz	1368x768, 60Hz
800x600, 100Hz	1400x1050, 60Hz
832x624, 75.1Hz	1440x900, 60Hz
1024x768, 60Hz	1600 x 1200, 60Hz
1024x768, 70Hz	1680x1050, 60Hz
1024x768, 72Hz	1920x1080, 60Hz

マウス モード

KX II は、ずれないマウス モード™、インテリジェント マウス モード、および標準マウス モードで動作します。

ずれないマウス モードの場合は、マウス パラメータを変更する必要はありません。ただし、このモードを使用するには、D2CIM-VUSB、D2CIM-DVUSB、またはデジタル CIM が必要です。標準マウス モードとインテリジェント マウス モードの場合は、マウス パラメータを特定の値に設定する必要があります。マウス設定は、ターゲットのオペレーティング システムによって異なります。詳細については、使用するオペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

インテリジェント マウス モードは、ほとんどの Windows プラットフォームで正常に機能しますが、ターゲット上でアクティブ デスクトップが設定されている場合は、予測できない結果を生じることがあります。インテリジェント マウス モードではアニメーション カーソルは使用しないでください。

Windows 2000 の設定

▶ Windows 2000® を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには

- マウスの設定を行います。
 - [スタート]、[コントロール パネル]、[マウス] の順に選択します。
 - [Motion] (動作) タブをクリックします。
 - アクセラレーションを [なし] に設定します。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [OK] (OK) をクリックします。
- アニメーション効果を無効にします。
 - [コントロール パネル] の [画面] オプションを選択します。
 - [効果] タブをクリックします。
 - [次のアニメーション効果をメニューとヒントに使用する] オプションをオフにします。
- [OK] をクリックして、[コントロール パネル] を閉じます。

Windows XP、Windows 2003、および Windows 2008 の設定

▶ Windows XP®、Windows 2003®、および Windows 2008® を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。

- マウスの設定を行います。
 - [スタート]、[コントロール パネル]、[マウス] の順に選択します。
 - [ポインタ オプション] タブをクリックします。
 - [速度] グループで、以下の操作を行います。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [ポインタの精度を高める] チェック ボックスをオフにします。
 - [OK] をクリックします。

- ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [ポインタの精度を高める] チェック ボックスをオフにします。
 - [動作] のオプションを無効にします。
 - [OK] (OK) をクリックします。
- アニメーション効果を無効にします。
 - [コントロール パネル] の [画面] オプションを選択します。
 - [デザイン] タブをクリックします。
 - [効果] ボタンをクリックします。
 - [次のアニメーション効果をメニューとヒントに使用する] オプションをオフにします。
 - [OK] をクリックして、[コントロール パネル] を閉じます。

注: Windows XP、Windows 2000、または Windows 2008 を実行している KVM ターゲット サーバの場合、KX II を介したリモート接続用に、専用のユーザ名を作成することが可能です。これにより、ターゲット サーバのマウス ポインタの速度や加速を KX II 接続用に遅く設定できます。

Windows XP、2000、および 2008 のログイン ページでは、マウスのパラメータが、最適な KX II パフォーマンス用に提案されたパラメータとは異なる、プリセットされたパラメータに戻ります。この結果、これらの画面ではマウスの同期は最適ではありません。

注: Windows KVM ターゲット サーバのレジストリを調整してもかまわない場合のみ、次の操作を行ってください。Windows レジストリエディタを使って次の設定を変更することにより、ログイン ページで KX II のマウスの同期を改善することができます。

```
HKey_USERS¥.DEFAULT¥Control Panel¥Mouse:> MouseSpeed = 0、MouseThreshold 1=0、MouseThreshold 2=0。
```

Microsoft Windows 7 および Windows Vista の設定

▶ Windows Vista® を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。

- マウスの設定を行います。
 - [スタート]、[設定]、[コントロール パネル]、[マウス] の順に選択します。
 - 左側のナビゲーション パネルから [システムの詳細設定] を選択します。[システムのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - [ポインタ オプション] タブをクリックします。
 - [速度] グループで、以下の操作を行います。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [ポインタの精度を高める] チェック ボックスをオフにします。
 - [OK] をクリックします。
- アニメーション効果とフェード効果を無効にします。

- a. [コントロール パネル] の [システム] オプションを選択します。
 - b. [パフォーマンス情報] を選択し、[ツール]、[詳細ツール]、[調整] の順に選択し、Windows の外観とパフォーマンスを調整します。
 - c. [詳細設定] タブをクリックします。
 - d. [パフォーマンス] グループの [設定] をクリックして、[パフォーマンス オプション] ダイアログ ボックスを開きます。
 - e. [カスタム] オプションで、以下のチェック ボックスをオフにします。
 - アニメーション関連のオプション:
 - [Windows 内のアニメーション コントロールと要素]
 - [ウィンドウを最大化や最小化するときにアニメーションで表示する]
 - フェード関連のオプション:
 - [メニューをフェードまたはスライドして表示する]
 - [ヒントをフェードまたはスライドで表示する]
 - [メニュー項目をクリック後にフェードアウトする]
3. [OK] をクリックして、[コントロール パネル] を閉じます。

▶ **Windows 7® を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。**

1. マウスの設定を行います。
 - a. [スタート]、[コントロール パネル]、[ハードウェアとサウンド]、[マウス] の順に選択します。
 - b. [ポインタ オプション] タブをクリックします。
 - c. [速度] グループで、以下の操作を行います。
 - ポインタの速度設定をちょうど中間の速度に設定します。
 - [ポインタの精度を高める] チェック ボックスをオフにします。
 - [OK] をクリックします。
2. アニメーション効果とフェード効果を無効にします。
 - a. [コントロール パネル]、[システムとセキュリティ] を選択します。
 - b. [システム] を選択し、左側のナビゲーション パネルから [システムの詳細設定] を選択します。[システムのプロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
 - c. [詳細設定] タブをクリックします。
 - d. [パフォーマンス] グループの [設定] ボタンをクリックして、[パフォーマンス オプション] ダイアログ ボックスを開きます。
 - e. [カスタム] オプションで、以下のチェック ボックスをオフにします。
 - アニメーション関連のオプション:
 - [Windows 内のアニメーション コントロールと要素]

- [ウィンドウを最大化や最小化するときにアニメーションで表示する]
 - フェード関連のオプション:
 - [メニューをフェードまたはスライドして表示する]
 - [ヒントをフェードまたはスライドで表示する]
 - [メニュー項目をクリック後にフェードアウトする]
3. [OK] をクリックして、[コントロール パネル] を閉じます。

Linux の設定

- ▶ **Linux® を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。**
- (標準マウス モードのみ) マウスの加速値を正確に 1 に設定し、しきい値も正確に 1 に設定します。コマンド「`xset mouse 1 1`」を入力します。このコマンドは、ログイン時の実行用に設定する必要があります。

Sun Solaris の設定

- ▶ **Sun® Solaris™ を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。**
1. マウスの加速値を正確に 1 に設定し、しきい値も正確に 1 に設定します。
 2. また、サポートされる解像度にビデオ カードが設定されており、出力が VGA (コンポジット Sync 以外) であることを確認します。

Apple Macintosh の設定

- ▶ **Apple Mac を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。**

Apple Macintosh® オペレーティング システムを実行している KVM ターゲット サーバに対しては、D2CIM-VUSB およびそれのないマウス機能を使用する方法が推奨されます。

注: [USB Profile] (USB プロファイル) メニューまたは [Port Configuration] (ポート設定) ページから USB プロファイル [Mac OS-X, version 10.4.9 and later] (MAC OS X (10.4.9 以降)) を選択する必要があります。

IBM AIX の設定

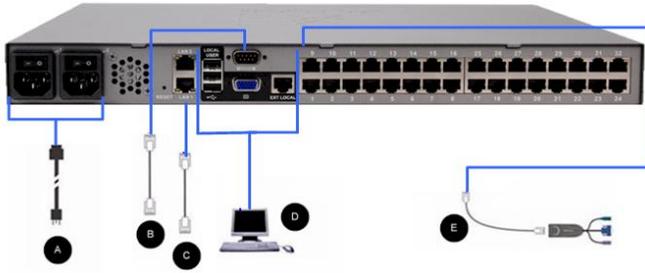
- ▶ **IBM AIX® を実行している KVM ターゲット サーバを設定するには、以下の手順に従います。**
- [Style Manager] を開き、[マウスの設定] をクリックします。[マウスの加速] を 1.0 に設定し、[しきい値] を 3.0 に設定します。

手順 2: ネットワーク ファイアウォールの設定

KX II へのリモート アクセスを有効にするには、ネットワークおよびファイアウォールにおいて、TCP ポート 5000 での通信が許可されている必要があります。あるいは、別の TCP ポートを使用するように KX II を設定し、その TCP ポートでの通信を許可します。

Web ブラウザで KX II にアクセスできるようにするには、ファイアウォールで TCP ポート 443 (標準 HTTPS) へのアクセスを許可する必要があります。TCP ポート 80 (標準 HTTP) にアクセスすると、HTTP 要求が自動的に HTTPS にリダイレクトされます。

手順 3: 装置の接続



A. AC 電源:

▶ 電源を接続するには、以下の手順に従います。

1. 付属の AC 電源コードを KX II と AC 電源コンセントに接続します。
2. 二重化電源フェイルオーバー保護を実装するには、付属の 2 つ目の AC 電源コードを、1 つ目の電源コードとは別の電源コンセントに接続します。

B. モデム ポート (オプション)

モデムの接続については、KX II のヘルプを参照してください。

C. ネットワーク ポート

KX II は、フェイルオーバー用に 2 つの Ethernet ポートを提供しています (負荷分散用ではない)。デフォルトでは LAN1 のみがアクティブで、自動フェイルオーバーは無効になっています。自動フェイルオーバーが有効な場合、KX II の内部ネットワーク インタフェース、またはその接続先のネットワークが使用できなくなると、同じ IP アドレスで LAN2 が利用可能になります。

注: フェイルオーバー ポートは実際にフェイルオーバーが発生するまで有効にならないので、フェイル オーバ ポートを監視しないか、フェイルオーバーが発生した後にのみ監視するようにすることをお勧めします。

▶ ネットワークを接続するには、以下の手順に従います。

1. (付属の) 標準 Ethernet ケーブルを、「LAN1」のラベルの付いたネットワーク ポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。
2. オプションの KX II Ethernet フェイルオーバー機能を使用するには、以下の手順に従います。
 - 標準 Ethernet ケーブルを、「LAN2」のラベルの付いたネットワーク ポートから、Ethernet スイッチ、ハブ、またはルータに接続します。

- [Network Configuration] (ネットワーク設定) ページで [Enable Automatic Failover] (自動フェイルオーバーを有効にする) をオンにします。

注: 1 つをフェイルオーバー用のポートとして使用する場合のみ、ネットワーク ポートを 2 つ使用してください。

D. ローカル アクセス ポート (ローカル PC)

KX II のローカル アクセス ポートを使用することによって、ラックからターゲット サーバに簡単にアクセスできます。ローカル アクセス ポートはインストールおよび設定に必要ですが、それ以降の使用についてはオプションです。ローカル アクセス ポートでは、管理およびターゲット サーバへのアクセスに KX II ローカル コンソールのグラフィカル ユーザ インタフェースも使用できます。

KX2-808、KX2-808 および KX2-864 には、ローカルでターゲット サーバにアクセスできるように、デバイスの背面に「EXT LOCAL」というラベルの付いた拡張ローカル ポートも用意されています。拡張ローカル ポートは、最初のインストールおよび設定には必要ありません。これはデフォルトでは有効になっていません。ローカル コンソールおよびリモート コンソールから設定します。

▶ ローカル ポートに接続するには、以下の手順に従います。

- マルチシンク VGA モニタ、マウス、キーボードを、対応するローカル ユーザ ポートに接続します。キーボードとマウスは、PS/2 または USB 互換のものを使用します (KX2-808、DKX2-832 および DKX2-864 では USB のみ)。ローカル ユーザ ポートおよび拡張ローカル ポートの物理的な接続位置は、KX II の背面パネルです。

接続	説明
モニター	標準マルチシンク VGA モニタを HD15 (メス) ビデオ ポートに接続します。
キーボード	標準 PS/2 キーボードを Mini-DIN6 (メス) キーボード ポートに接続するか、標準 USB キーボードを USB タイプ A (メス) ポートのいずれかに接続します。
マウス	標準 PS/2 マウスを Mini-DIN6 (メス) マウス ポートに接続するか、標準 USB マウスを USB タイプ A (メス) ポートのいずれかに接続します。

注: 今後の KX II モデルでは、PS/2 ローカル ポートではなく USB ポートを提供します。

E. ターゲット サーバ ポート

KX II は、標準 UTP ケーブル (Cat5/5e/6) を使用して各ターゲット サーバに接続します。KX II とターゲット サーバとの間のサポートされている距離については、KX II ヘルプの「サポートされているターゲット サーバとの接続距離/リフレッシュ レート/画面解像度」を参照してください。デジタル CIM (DCIM) を使用している場

合は、KX II ヘルプの「デジタル CIM ターゲット サーバのタイミングおよび画面解像度」を確認してください。

▶ **ターゲット サーバを KX II に接続するには、以下の手順に従います。**

1. 適切なコンピュータ インタフェース モジュール (CIM) またはデジタル コンピュータ インタフェース モジュール (DCIM) を使用します。
2. お使いの CIM/DCIM の HD15 ビデオ コネクタをターゲット サーバのビデオ ポートに接続します。ターゲット サーバのビデオが、サポートされている解像度と垂直走査周波数に設定されていることを確認します。Sun サーバの場合は、ターゲット サーバのビデオ カードがコンポジット Sync ではなく標準 VGA (H-and-V Sync) を出力するように設定されていることも確認してください。
3. お使いの CIM/DCIM のキーボード/マウス コネクタを、ターゲット サーバの該当するポートに接続します。ターゲット サーバのビデオ ポートから KX II に接続する場合は、DCIM を使用します。
4. KX II の背面にあるサーバ ポートに CIM を接続します。CIM には標準のストレート UTP (Cat5/5e/6) ケーブルを、DCIM には標準の USB ケーブルを使用します。

注: DCIM-USB G2 の背面には小さいスライド型スイッチがあります。PC ベースの USB ターゲット サーバの場合はスイッチを P にします。Sun の USB ターゲット サーバの場合はスイッチを S にします。

変更後のスイッチ位置が有効になるのは、CIM に給電し直した後です。CIM に給電し直すには、ターゲット サーバから USB コネクタをいったん取り外し、数秒経ってから再度取り付けます。

手順 4: KX II の設定

Web ブラウザを使用して KX II をリモートで設定できます。ただし、リモート クライアントに適切なバージョンの Java Runtime Environment (JRE) がインストールされている必要があります。IP アドレスの初期設定に加えて、他のすべての設定は、Ethernet クロス ケーブルおよび KX II のデフォルトの IP アドレスを使用して Web ブラウザからネットワーク経由で指定できます。

デフォルト パスワードの変更

KX II の出荷時には、デフォルトのパスワードが設定されています。KX II を初めて起動したときは、このパスワードを変更する必要があります。

▶ **デフォルトのパスワードを変更するには、以下の手順に従います。**

1. 本体が起動したら、デフォルトのユーザ名 (admin) とパスワード (raritan) を入力します。[ログイン] をクリックします。
2. 古いパスワード (raritan) を入力し、新しいパスワードを入力した後、もう一度新しいパスワードを入力します。パスワードには、最大 64 文字の英数字と特殊文字を使用できます。[適用] をクリックします。[確認] ページで [OK] をクリックします。

注: デフォルトのパスワードは Raritan Multi-Platform Client (MPC) から変更できます。

IP アドレスの割り当て

ここでは、[Network Settings] (ネットワーク設定) ページで IP アドレスを割り当てる方法について説明します。

1. [Device Settings] (デバイス設定) の [Network] (ネットワーク) を選択します。[ネットワーク設定] (Network Settings) ページが開きます。
2. KX II デバイスにわかりやすいデバイス名を指定します。最大 32 文字の英数字と有効な特殊文字を組み合わせて使用できます。スペースは使用できません。
3. [IPv4] セクションで、適切な IPv4 固有のネットワーク設定を入力するか選択します。
 - a. 必要場合は、[IP Address] (IP アドレス) を入力します。デフォルトの IP アドレスは「192.168.0.192」です。
 - b. [Subnet Mask] (サブネット マスク) を入力します。デフォルトのサブネット マスクは「255.255.255.0」です。
 - c. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウン リストで [None] (設定しない) を選択する場合は、[Default Gateway] (デフォルト ゲートウェイ) を入力します。
 - d. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) ドロップダウン リストで [DHCP] を選択する場合は、[Preferred DHCP Host Name] (優先 DHCP ホスト名) を入力します。
 - e. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
 - [None] (設定しない) (静的 IP) - このオプションを選択した場合は、ネットワークの IP アドレスを手動で指定する必要があります。KX II はインフラストラクチャ デバイスであり、IP アドレスは変更されないため、このオプションを推奨します。
 - [DHCP] - DHCP サーバから一意の IP アドレスとその他のパラメータを取得するために、ネットワークに接続しているコンピュータ (クライアント) によって Dynamic Host Configuration Protocol が使用されます。

このオプションを選択した場合、ネットワーク パラメータは DHCP サーバによって割り当てられます。DHCP を使用する場合は、[Preferred host name] (優先ホスト名) を入力します (DHCP のみ)。最大 63 文字まで使用できます。
4. IPv6 を使用する場合は、[IPv6] セクションで、適切な IPv6 固有のネットワーク設定を入力するか、選択します。
 - a. [IPv6] チェックボックスをオンにしてセクション内のフィールドを有効にし、デバイスの IPv6 を有効にします。
 - b. [Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス) を入力します。これは、KX II に割り当てられる IP アドレスです。
 - c. [Prefix Length] (固定長) を入力します。これは、IPv6 アドレスで使用されるビット数です。

- d. [Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス) を入力します。
- e. [Link-Local IP Address] (リンク - ローカル IP アドレス)。このアドレスは、自動的にデバイスに割り当てられます。これは、近隣探索で、またはルータが存在しない場合に使用されます。**[Read-Only] (読み取り専用)**
- f. [Zone ID]。これは、アドレスが関連付けられているデバイスを識別します。**[Read-Only] (読み取り専用)**
- g. [IP Auto Configuration] (IP 自動設定) を選択します。次のオプションを使用できます。
 - [None] (設定しない) - 自動 IP 設定を使用せず、IP アドレスを自分で設定する場合は、このオプションを選択します (静的 IP)。推奨されるデフォルトのオプションです。
[IP auto configuration] (IP 自動設定) で [None] (設定しない) を選択すると、[Network Basic Settings] (ネットワーク基本設定) フィールド ([Global/Unique IP Address] (グローバル/一意の IP アドレス)、[Prefix Length] (固定長)、[Gateway IP Address] (ゲートウェイ IP アドレス)) が有効になり、IP アドレスを手動で設定できるようになります。
 - [Router Discovery] (ルータ検出) - このオプションを使用して、直接接続されるサブネットにのみ適用される [Link Local] (リンク ローカル) を超える [Global] (グローバル) または [Unique Local] (一意ローカル) を意味する IPv6 アドレスを自動的に割り当てます。
5. [DHCP] が選択され、[Obtain DNS Server Address] (DNS サーバ アドレスを取得) が有効になっている場合は、[Obtain DNS Server Address Automatically] (DNS サーバ アドレスを自動的に取得) を選択します。DNS サーバ アドレスが自動的に取得されると、DHCP サーバが提供する DNS 情報が使用されます。
6. [Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバ アドレスを使用) を選択する場合は、[DHCP] が選択されているかどうかにかかわらず、このセクションに入力されたアドレスが、DNS サーバの接続に使用されます。
[Use the Following DNS Server Addresses] (次の DNS サーバ アドレスを使用) オプションを選択する場合は、次の情報を入力します。これらのアドレスは、停電によりプライマリ DNS サーバ接続が切断された場合に使用されるプライマリおよびセカンダリ DNS アドレスです。
 - a. [Primary DNS Server IP Address] (プライマリ DNS サーバ IP アドレス)
 - b. [Secondary DNS Server IP Address] (セカンダリ DNS サーバ IP アドレス)
7. 完了したら [OK] をクリックします。これで、KX II デバイスはネットワークにアクセスできます。

日付/時刻の設定 (オプション)

必要に応じて、日付と時刻を設定します。日付と時刻の設定は、LDAPs が有効になっている場合に SSL 証明書の検証に影響します。

▶ 日付と時刻を設定するには、以下の手順に従います。

1. [デバイス設定] の [日付/時刻] を選択します。[日付/時刻の設定] ページが開きます。
2. [タイムゾーン] ドロップダウン リストから適切なタイムゾーンを選択します。
3. 夏時間用の調整を行うには、[夏時間用の調整] チェックボックスをオンにします。
4. 日付と時刻の設定で用いる方法を選択します。
 - [ユーザによる時刻定義]: 日付と時刻を手動で入力するには、このオプションを選択します。[ユーザによる時刻定義] オプションを選択した場合は、日付と時刻を入力します。時刻は、hh:mm の形式を使用します (24 時間制で入力します)。
 - [NTP サーバと同期]: 日付と時刻をネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバと同期するには、このオプションを選択します。
5. [NTP サーバと同期] オプションを選択した場合は、以下の手順に従います。
 - a. プライマリ タイム サーバの IP アドレスを入力します。
 - b. セカンダリ タイム サーバの IP アドレスを入力します。**(オプション)**
6. [OK] をクリックします。

ターゲット サーバの命名

▶ ターゲット サーバに名前を付けるには、以下の手順に従います。

1. まだすべてのターゲット サーバを接続していない場合は、接続します。装置の接続方法の詳細については、「**手順 3: 装置の接続**」『4p. 』を参照してください。
2. KX II ローカル コンソールを使用して、[デバイス設定] の [ポート設定] を選択し、名前を付けるターゲット サーバの [ポート名] をクリックします。
3. サーバの名前を入力します。名前には最大 32 文字の英数字と特殊文字を使用できます。[OK] をクリックします。

電源の自動検出の指定

KX II には二重化電源が搭載されており、これらの電源の状態を検出し、通知できます。正しく設定することで、電源に障害が発生した場合に KX II によって適切な通知が送信されます。

[Power Supply Setup] (電源設定) ページは、2 つの電源が使用されている場合に両方の電源を自動的に検出するように設定されています。お使いの設定で電源を 1 つだけ使用している場合は、[Power Supply Setup] (電源設定) ページから自動検出を無効にできます。

▶ **使用中の電源の自動検出を有効にするには、以下の手順に従います。**

1. [Device Settings] (デバイス設定) の [Power Supply Setup] (電源設定) を選択します。[Power Supply Setup] (電源設定) ページが開きます。
2. 電源入力を 1 番目の電源 (デバイス背面の左端の電源) に接続している場合は、[PowerIn1 Auto Detect] (PowerIn1 自動検出) チェック ボックスをオンにします。
3. 電源入力を 2 番目の電源 (デバイス背面の右端の電源) に接続している場合は、[PowerIn2 Auto Detect] (PowerIn2 自動検出) チェック ボックスをオンにします。
4. [OK] (OK) をクリックします。

注: これらのチェック ボックスのいずれかをオンにしたにもかかわらず、電源入力を実際には接続されていない場合は、デバイス前面の電源 LED が赤色で点灯します。

ユーザ グループとユーザの作成 (オプション)

▶ **新規ユーザ グループを追加するには、以下の手順に従います。**

1. [ユーザ管理] の [新規ユーザ グループの追加] を選択するか、[ユーザ グループ リスト] ページの [追加] をクリックします。
2. [グループ名] フィールドに、新しいユーザ グループのわかりやすい名前 (最大 64 文字) を入力します。
3. このグループに属するすべてのユーザに対して割り当てる許可の横にあるチェックボックスをオンにします。「許可の設定」を参照してください。
4. このグループに属するユーザがアクセスできるサーバ ポートと、そのアクセスのタイプを指定します。「ポート権限の設定」を参照してください。
5. IP ACL を設定します。この機能は、IP アドレスを指定することで、KX II デバイスへのアクセスを制限します。この機能は、特定のグループに属するユーザにのみ適用されます。このデバイスに対するすべてのアクセス試行に適用され、優先される、IP アクセス制御リスト機能とは異なります。「グループベースの IP ACL (アクセス制御リスト)」を参照してください。 (オプション)
6. [OK] (OK) をクリックします。

▶ **新規ユーザを追加するには、以下の手順に従います。**

1. [ユーザ管理] の [新規ユーザの追加] を選択するか、[ユーザ リスト] ページの [追加] をクリックします。
2. [ユーザ名] フィールドに、一意のユーザ名を入力します (最大 16 文字)。
3. [フル ネーム] フィールドに、ユーザのフル ネームを入力します (最大 64 文字)。
4. [パスワード] フィールドにパスワードを入力し、[パスワードの確認] フィールドにパスワードを再入力します (最大 64 文字)。
5. [ユーザ グループ] ドロップダウン リストからグループを選択します。

6. 新規ユーザを有効にするには、[アクティブ] チェックボックスをオンのままにします。[OK] をクリックします。

手順 5: KX II リモート コンソールの起動

▶ **KX II リモート コンソールを起動するには、以下の手順に従います。**

1. KX II には、Microsoft .NET® または Java Runtime Environment® (JRE) がインストールされている、ネットワーク接続機能を備えた任意のコンピュータからログインできます (JRE® は **Java の Web サイト** <http://java.sun.com/> から入手できます)。
2. サポートされている Web ブラウザ (Internet Explorer® や Firefox® など) を起動します。
3. .NET の URL 「<http://IP-ADDRESS/>」または「<http://IP-ADDRESS/akc/>」を入力します。IP-ADDRESS は KX II に割り当てられる IP アドレスです。また、HTTPS を使用することや、管理者によって割り当てられた KX II の DNS 名を使用することもできます (DNS サーバが設定されている場合)。IP アドレスをそのまま入力してもかまいません (KX II では常に IP アドレスが HTTP から HTTPS にリダイレクトされます)。
4. ユーザ名とパスワードを入力します。[ログイン] をクリックします。

リモートからのターゲット サーバのアクセスと制御

KX II の [ポート アクセス] ページには、すべての KX II ポート、接続中のターゲット サーバ、ターゲット サーバの状態およびその可用性が表示されます。

ターゲット サーバへのアクセス

▶ **ターゲット サーバにアクセスするには、以下の手順に従います。**

1. アクセスしたいターゲット サーバのポート名をクリックします。[ポート アクション] メニューが開きます。
2. [ポート アクション] メニューの [接続] をクリックします。[KVM] ウィンドウが開き、ターゲットへの接続が示されます。

ターゲット サーバの切り替え

▶ **KVM ターゲット サーバを切り替えるには、以下の手順に従います。**

1. ターゲット サーバを使用しているときに、KX II の [ポート アクセス] ページを開きます。
2. アクセスするターゲットの [ポート名] をクリックします。[ポート アクション] メニューが表示されます。
3. [ポート アクション] メニューの [切り替え元] を選択します。選択した新しいターゲット サーバが表示されます。

ターゲット サーバの切断

- ▶ **ターゲット サーバを切断するには、以下の手順に従います。**
- 切断するターゲットのポート名をクリックします。[ポート アクション] メニューが表示されたら、[切断] をクリックします。

手順 6: キーボード言語の設定 (オプション)

注: 英語 (アメリカ)/国際キーボードを使用している場合は、この手順を実行する必要はありません。

英語 (アメリカ) 以外の言語を使用する場合、キーボードを適切な言語に設定する必要があります。また、クライアント マシンおよび KVM ターゲット サーバのキーボード言語を同じにする必要があります。

キーボード レイアウトを変更する方法の詳細については、お使いのオペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

キーボード レイアウト コードの変更 (Sun ターゲット)

この手順は、DCIM-SUSB を使用していて、キーボード レイアウトを別の言語に変更する場合に使用します。

- ▶ **キーボード レイアウト コードを変更するには、以下の手順に従います (DCIM-SUSB のみ)。**

1. Sun™ ワークステーション上で [テキスト エディタ] ウィンドウを開きます。
2. Num Lock キーが有効であることを確認した後、キーボードの左の Ctrl キーと Del キーを押します。Caps Lock ライトが点滅して、CIM がレイアウト コード変更モードであることを示します。テキスト ウィンドウに、「Raritan Computer, Inc. Current keyboard layout code = 22h (US5 UNIX)」と表示されます。
3. 適切なレイアウト コード (たとえば日本語キーボードは 3I) を入力します。
4. Enter キーを押します。
5. デバイスの電源を切った後、再度電源を入れます。DCIM-SUSB がリセット (電源の再投入) されます。
6. 入力した文字が正しく表示されることを確認します。

手順 7: カスケード接続の設定 (オプション)

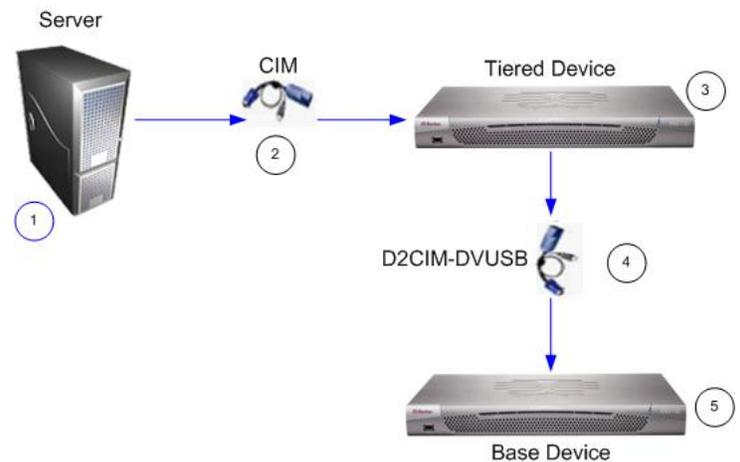
オプションのカスケード接続機能を利用することにより、カスケード接続 KX II をベース KX II に接続できます。これにより、ベース ProductName からサーバおよび PX PDU にアクセスできます。ローカル アクセスとリモート アクセスのどちらも可能です。この機能の詳細については、KX II ヘルプの「[Device Management] (デバイス管理)」セクションを参照してください。

ベース KX II デバイスのターゲット サーバ ポートとカスケード接続 KX II デバイスのローカル アクセス ポート (ビデオ/キーボード/マウス ポート) を、D2CIM-DVUSB で接続します。

カスケード接続デバイスが KX2-808、KX2-832 または KX2-864 である場合は、ベース デバイスのターゲット サーバ ポートと KX2-808/KX2-832/KX2-864 の拡張ローカル ポートを直接接続します。

- ▶ **ティア接続を有効にするには**

1. ティアー接続構成内のベース デバイスで、[Device Settings] (デバイス設定) の [Device Services] (デバイス サービス) を選択します。[Device Services Settings] (デバイス サービス設定) ページが表示されます。
2. [Enable Tiering as Base] (ベースとしてのティア接続を有効にする) を選択します。
3. [Base Secret] (ベース秘密ワード) フィールドに、ベース デバイスとティア接続デバイス間で共有される秘密ワードを入力します。この秘密ワードは、ティア接続デバイスでベース デバイスを認証する際に必要となります。同じ秘密ワードをティア接続デバイスに対して入力します。
4. [OK] (OK) をクリックします。
5. ティアー接続デバイスを有効にします。ティア接続デバイスで、[Device Settings] (デバイス設定) の [Local Port Settings] (ローカル ポート設定) を選択します。
6. このページの [Enable Local Ports] (ローカル ポートを有効にする) セクションで、[Enable Local Port Device Tiering] (ローカル ポート デバイスのティア接続を有効にする) を選択します。
7. [Tier Secret] (ティア接続秘密ワード) フィールドに、ベース デバイスの [Device Settings] (デバイス設定) ページで入力したのと同じ秘密ワードを入力します。
8. [OK] (OK) をクリックします。



図の説明

1	ターゲット サーバ
2	ターゲット サーバとカスケード接続 KX II デバイスを接続する CIM

図の説明

	カスケード接続 KX II デバイス
	カスケード接続 KX II デバイスとベース KX II デバイスを接続する D2CIM-DVUSB CIM
	ベース KX II デバイス

デバイスのリセット (必要な場合)

デバイスを出荷時設定にリセットする必要がある場合にのみ、リセット機能を使用します。

注: 出荷時設定にリセットする前に、監査ログを保存しておくことを推奨します。出荷時設定にリセットされると、監査ログが削除されます。また、リセット イベントは監査ログに記録されません。

▶ デバイスをリセットするには、以下の手順に従います。

1. KX II の電源を切ります。
2. 先端の尖った道具を使用してリセット ボタンを押し続けます。
3. リセット ボタンを押したまま、KX II の電源を入れ直します。
4. リセット ボタンを 10 秒間押したままにします。

その他の情報

KX II[™] および Raritan 製品ラインナップ全体の詳細については、Raritan の Web サイト (www.raritan.co.jp) を参照してください。技術的な問題については、Raritan のテクニカル サポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカル サポート窓口については、Raritan の Web サイトの「Support」セクションにある「Contact Support」ページを参照してください。

Raritan の製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、オープン ソース コードのコピーを要求できます。詳細については、Raritan の Web サイトにある「Open Source Software Statement」(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>) を参照してください。